



理事長挨拶

(浅尾理事長)

皆さん進級、卒業、修了おめでとう
ございます。毎週土曜日、色々な思い
で、補習校に通われていたことと思
います。3月4日の総会で報告しましたよ
うに、今年の理事会も多忙な1年です
た。補習校を取り巻く環境は、刻々と
変化しており、その対応に追われてい
たという感じがしますが、保護者の方
々の多大なご協力のもと、児童、生徒
の皆さんが、少しでも楽しく勉強でき
るにはキーワードに活動してきました。



ボランティアの方々の絶大なご協力もあり、補習校データベースシステムの構築、図書システムの導入(小学部SF校)、登校時の安全の改善(小学部SJ校)、学校医・学校歯科医の設置、高等部の運営、事務局の効率化などが実現しました。また、将来像委員会を設置し、保護者・先生方からの声もお聞きし中長期的な方向性についても有益なご提言をいただきました。これを受けて、早速学校運営の基本方針の見直しも行いました(詳しくは、後の記事をご覧ください)。

本年、何人かの方から、補習校運営に関するご意見を、投書あるいはお手紙で頂戴しました。しかし残念ながらどれも匿名か、差出人不明でした。「やまなみ」でも示しますように、匿名のご提案には対応しないというのが理事会の基本方針です。しかし、我々理事会は、常に皆様方のご意見、ご忠告を真摯に受け止めることも基本方針としておりますので、今後、ご提案などは是非、身元を明らかにした上でお寄せいただくことを、改めてこの機会にお願いします。ご提案に対しては理事会で真摯に検討のうえ、その結果もお知らせいたします。ご提案の内容は外部や直接の利害関係者に漏れることの無いよう厳重な管理のもとで行われますので、ご懸念なくご意見をお寄せいただければと思います。

学事報告、来年度の体制

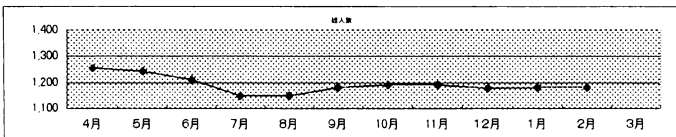
(岩崎校長)

1 本年度の学事報告

○児童・生徒数の推移(2月末日現在)

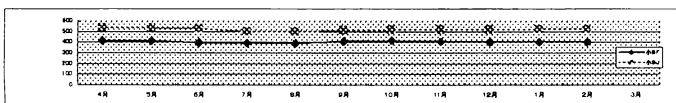
(1) 総数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総人数	1,255	1,244	1,211	1,149	1,149	1,182	1,192	1,191	1,180	1,183	1,182	



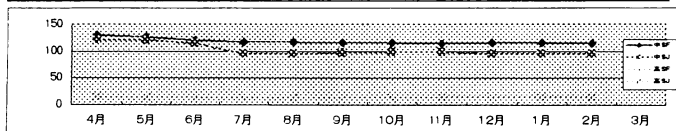
(2) 小学部

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小SF	415	413	397	393	393	408	414	411	404	404	404	
小SJ	537	533	528	496	496	512	515	517	517	520	520	



(3) 中高部

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中SF	130	127	121	117	117	116	116	115	116	116	115	
中SJ	122	121	115	95	95	97	98	98	95	95	95	
高SF	36	36	36	35	35	35	35	35	33	33	33	
高SJ	15	14	14	13	13	14	14	15	15	15	15	



2 18年度の学校体制について

(1) 学校体制変更に至った理由

小泉内閣の国家公務員削減案の具体策が明らかになり、その具体化のひとつとして在外教育施設の派遣教員の配置定数の見直しが進められることとなりました。

在外教育施設で学ぶ児童・生徒の数は、アジア地区で相当数の増加が見られますが、本校においては年毎に減少している状況です。

本校や国内の事情から17年度までは5名の派遣教員の配置がなされていましたが、次年度以降は順次派遣教員の定数規定の3名まで減員されることが予想されます。

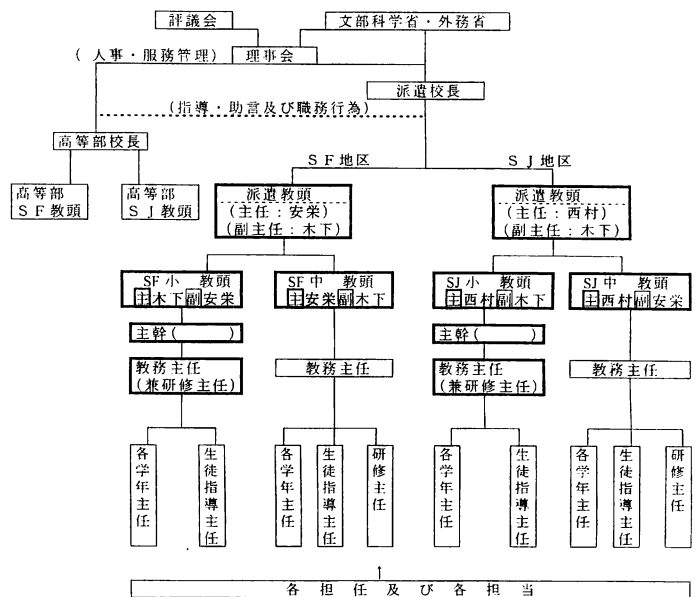
そこで、そのような状況下でもスムーズな学校運営が行われよう小学部より順次校務体制の見直しを行うことにしました。

(2) 学校体制変更のポイント

- ① 現地採用先生で、管理および指導を行える主幹のポストを設定した。また教務主任と生徒指導主任に業務の専任性を持たせ、教育相談や安全管理がより充実されるよう校務分掌を改善を行いました。
- ② 派遣教員については、本務である各先生方への教科教育法及び生徒指導・学級指導等の研修や実務指導の時間を確保し、指導力量向上のために尽力できる体制を整えました。

(3) 体制変更の組織図

平成18年度サンフランシスコ補習校組織表



通常総会報告

(金井田総務委員長)

先の3月4日(土)、小学部SJ校にて平成17年度通常総会が開催されました(出席者70名、委任状376通、有効総評数868の3分の1以上で成立)。

冒頭、浅尾理事長から「今年度の学校運営は大きな転換期だった。高等部の運営や将来像委員会の設置など多くのことに取り組んできた。補習校データベースシステムの完成など成果も多かったが、派遣教員の減少など運営面・経営面で来年度以降さらに難しい局面も残る」との基調報告があり、その後、各委員会から活動報告がありました。

総務委員会からは、データベースシステムの本格稼働や広報活動(やまなみ)の充実について報告されました。校務委員会(期の途中で、学務委員会を高等部委員会と学務委員会に改組)からは、小SF校の図書システムの導入、プロジェクターの導入、学校医・学校歯科医の設置、オープンハウスの実施などについて報告されました。高等部委員会からは、初年度ということもあり、修学旅行などを除き昨年来年までをほぼ踏襲した教育を実施したこと、来年度は90分授業など新しい取り組みにチャレンジしていくことが報告されました。財務委員会からは、事務プロセスを全面的に見直し経費実績をより早く把握できるようになったこと、将来5年間の中長期見通しを策定し、将来像委員会の検討の基礎資料としたことなどが報告されました。法規委員会からは、経費規程や教職員ハンドブックなどの諸規定の整備を進めたことが報告されました。また、将来像委員会(村山委員長)から、改めて提言の内容が紹介されました。

続いて、岩崎校長の学事報告では、この4月から派遣教員が1名削減されること(5名から4名)、そのため現在の4校にそれぞれ派遣教頭を常駐で置くことができなくなる、さらに来年度はもう一名削減される可能性もあることから、現地採用教員の中から、主幹職(教頭補佐)を置くことで対応することが報告されました。次の会計報告では、こうした情勢を受け、今期は約3万5千ドルの赤字となる見込であり、来年度は21万ドルの大幅な赤字が見込まれることが報告されました。

質疑応答では、①大幅な赤字決算となるなかで、次年度以降の授業料の値上げは検討されているのか、②将来像委員会で提言されている幼稚部の設置などにより、さらに赤字が拡大するおそれはないのか(実施する場合、十分に経営上・財務面での検討が必要)、③現地校で行われているようにFund Raisingなどの活動をもっと活発化できないか(古本市でも50¢で売るのはなく、もう少し高く売って収益を目指す。企業などにもっとドネーションを依頼するなど)の、ご質問・ご意見がありました。これに対しては、①来年度の大赤字は派遣教員削減が急に決まったためのものであり、来期の授業料値上げは検討できなかった。また今後も状況が変化していく可能性が高い。ただ、いずれどこかで授業料の見直しが必要になると思われる。②幼稚部の設置は、未定である。ただご指摘の通り設置の検討にあたっては慎重に財務面・経営面での計画を詰める。③学校運営にあたっては既に保護者の方々の多くのボランティアをいただいている。Fund Raisingでもさらに負担が増える可能性がある。ただ、負担が増えないような工夫を検討したい、との応答がありました。

以上にて、閉会となりました。

第二回評議会報告

(村山理事)

2月16日、今年度二回目で最後の評議会がもたれました。評議会とは、理事会の諮問機関(アドバイザリー・ボード)で、法人会員の中で、常日頃補習校の運営に関してご理解とご支援をいただいている企業の方々によって構成されている組織です。将来像委員会の報告を受け、理事会がどういう対応を取るべきかについて助言をいただきました。

酒井評議会会長から、次のようなご意見をいただきました。(1)総論・方向性については賛成できる。(2)補習校の現状に鑑みて学校基本方針を改訂すべきである。(3)幼稚部等の設置については、経営面(収支面)で慎重な検討が必要である。(4)日本語単位認定については大きなメリットが期待できるので、ハードルは高いが早期の実現を望む。(5)今回の調査アンケート結果を活用し、保護者・教員等との対話の促進を期待する。

また、平成18年度の評議会新役員の選出について報告がありました。以下の通りです。

会長	酒井道久(再任)	JAL International
第一副会長	山田晃(再任)	Union Bank of California
第二副会長	小松原繁(新任)	DNP Corp USA

第六回理事会報告

(村山理事)

評議会に引き続き、今年度最後の理事会がもたれました。各種報告の後、いくつか大事な決定事項がありました。

まず、小学部SJ校でのドロップオフ実施が決まり、「安全登校当番」を設けることになりました。また学校歯科医の設置も決まり、望月博美先生をお迎えします。

続いて将来像委員会からの答申について、評議会からのアドバイスに基づき、次のアクションプランを決めました。

1. 補習校は、長期滞在の子供たちも長く学習できる環境を用意すべきである。報告書に提言されている対策(クラス編成など)の具体化にむけた検討を派遣教員指導の下に始める。
2. その主旨が正確に伝わるよう、学校便覧など各種の文書における「学校基本方針」の文言を見直す作業に着手する。
3. 学校運営全般を話し合う「補習校フォーラム」を設置する。
4. 児童・生徒数の減少、それに伴う派遣教員減員など周辺環境の変動にも対応できる経営モデルの策定をする作業グループを設置し、幼稚部・デイケアの可能性について具体的検討作業を開始する。
5. 外部認定機関による認証、単位認定などをうけるための準備作業を進める作業グループを設置し、2006-2007学年での実現に向けて作業を開始する。
6. 今回の調査アンケート結果を有効利用し保護者、教員との対話をより実質的なものとする。

点2については既に新しい文言が承認され、別の記事に詳しく述べられている通りです。残りの点については来年度個別に具体的な作業に入ります。

更に来年度から派遣教員の数が5名から4名へ減ることが確実となり、新しい体制作りが岩崎校長より提案されて承認されました。この四点は別の記事をご参照下さい。

高等部サンノゼ校の保護者より自家用車以外での通学を認めてほしいとの要望を受けて、徒歩、自転車、乗り合いバス、保護者送迎のいずれでもよいことにしました。学校データベースのポリシーも議論し、ログインのときにも同意を求めることとなります。

最後に先生たちの御意見を理事会としてどうくみ上げていくかが議論され、今後検討を続けていくことになりました。

補習校データベース・システム (長岡理事)

今年2月の試行運用開始以来多くの方にアクセスしていただきありがとうございました。約40%の保護者の方がシステムにアクセスされ、その半分の方がメールアドレスを登録されました。試行運用中には色々な提案をいただき改善することができました。また3月には全保護者に同報送信を試験的に行ってみました。そこでも問題点を見つけることができ、改善しました。さらに、システムによる銀行自動引き落としも始め事務局の処理効率化に貢献しております。なお3月20日頃から約一ヶ月間メンテナンスのためにシステムを一時中止いたします。来年度からは本稼働を行いますので、皆様のご協力をお願いいたします。尚ユーザー名とパスワードは例外を除き来年度になっても変更がありませんのでそのままお使いください。

ちなみに、このシステムの愛称を募集しています。名案のある方、質問のある方は support@sfjlc.com まで。

「学校運営の基本方針」の改定 (金井田理事)

将来像委員会の報告において、「帰国する子供たちが日本の学校に適應できるような教育を施すのが第一義だが、『帰国対応』を広く考え、当面日本の学校に入る予定のない子弟も受け入れ、様々な背景を持つ子供たちの交流を図ることも補習校の目的とする」ことが提言されました。理事会では、岩崎校長からの提言も受け、役員会での検討、評議会(理事会の諮問機関)への諮問など慎重に検討を重ねた結果、次の通り改定することとしました。

従来	改定後
日本語による日本語を中心とした学習を通して、帰国後、日本の学校や社会に適應できる素地を養う。週1日同じような環境の下に学習し、生活することによって日本人としての共通のものの見方、考え方、行動様式等を確認し合い帰属感を深める。彼我の国の文化や文明に対して、偏見や独断にとらわれずに、それぞれの良さを撰取したり、その発展のために貢献しようとする広い視野を身につけさせる。また、異なった環境にあっても力強く生き抜く意志と力を培う。	本校は、日本語による教科学習や日本的な学校行事を行い、日本の学校や社会に適應できる素地を養うことを通して、日本に対する理解と啓発を推進する。また、様々な環境で育ってきた子どもたちに対して日本の学校教育を実践し、「日本語で学ぶ力」と「異なる環境を受け入れる資質」そして「個性を伸ばし自己の生き方の実現に向けて力強く生きる力」を培い、日本人のアイデンティティを理解する力を育てる。さらに、在外教育施設の特徴を活かして、国際社会に生きる力を育てる。

主要な改定点、改定の意図は次の通りです。

(1)「帰国後」の一語をなくした：

(従来)「帰国後、日本の学校や社会に適應できる素地を養う」から(改定後)「日本の学校や社会に適應できる素地を養うことを通して、日本に対する理解と啓発を推進する」とより幅広く捉えることで、様々な環境にある子供たちを真正面から平等に捉えることを宣言しました。

(2)児童生徒が「日本人」であることを前提から外した：(従来)「日本人としての共通のものの見方、考え方、行動様式等を確認し合い帰属感を深める」と、児童生徒が日本人であること前提としていたものを、(改定後)「日本人のアイデンティティを理解する力を育てる」とすることで、国籍による区別を行わないことを明確にしました。

(3)表現をより客観的・具体的とした：

(従来)の「広い視野」、「力強く生き抜く意志と力」といった主観的な形容詞・副詞を避け、より客観的・具体的な表現としました。

なお、当補習校は、在外教育施設として政府の認定を受け、文部科学省・外務省から一定の補助金を得て運営されており、例えば、米国籍の本人・保護者で、単に日本語に興味があり勉強したい(これはこれで、両国の関係強化にも有益なのですが)という場合まで、入学を認める一ということではありません。

この「学校運営の基本方針」の改定を受け、学校(先生方)には「教育目標」、「目指す学校像」、「目指す児童・生徒像」、「目指す教師像」(新設)を改定していただきました。詳しくは学校便覧をご覧ください。

学校歯科医に望月博美先生 (松波理事)

今年度より、学校医制度がスタートしました。それに伴い、今回学校歯科医として望月博美先生にご協力いただけることになりました。2月25日に、岩崎校長先生・浅尾理事長より委嘱状が手渡されました。望月先生は、サニーベールの Dr. Tsuchiya のオフィスで毎週水曜日勤務されており、小さなお子様も担当しています。「私に関わることで、子供たちの虫歯が減ればとても嬉しいことです。」と言ってください先生！全校児童・生徒の歯の健康指導はもちろん、家庭への指導協力など幅広いご活躍をお願いしたいと思います。

小学部 SF 校菅野教頭帰国

現地校と補習校を両立する子ども達の強さ、子ども達を見守る保護者の皆様の愛情、週1回の授業日のために準備をする先生方の熱意、補習校を陰から支える事務用務看護職員の努力、現地校や教育局など現地の皆様の協力。補習校で仕事をするはずの僕は逆にたくさんのお話を学びました。この3年間は僕の宝です。ありがとうございました。



小学部 SJ 校夏越教頭帰国

3年という時間は、思っていた以上に早いものでした。いつも理事会や保護者会、保護者の皆様に助けていただくことの多い3年でした。この3年間に142回の授業日を迎え、カリフォルニアの青空のように青く澄み切った心の子もたちと過ごすことができました。わたしの教員生活の中の大きな思い出であり、財産です。ありがとうございました。



補習校ウェブサイト

本補習校ではいままですfjlc.comのアドレスを使ってきましたが、非営利団体なのに.comのアドレスは不自然だとの考えから、sfjlc.orgを使うことにしました。移行のため、当面はsfjlc.comも使えます。

小 SJ 校の登校規則が変わります (松波理事)

恒常的な駐車場不足による、近隣住民からの苦情や違反登校などが見られたサンノゼ校から、今年度10月に、ドロップオフ実施を含む登校規則の改正の提案が出されていました。1月28日からのドロップオフ試行を含め、理事会で検討した結果、来年度よりドロップオフを含めた登校規則の変更を可決いたしました。その提案の中には、ドロップオフの円滑な実施はもとより、当番を置くことによる登校時の駐車場における危険の回避や、横断歩道のサポートを含めた歩行者の安全確保など盛り込まれています。子供たちの安全な登校のために「安全登校当番」の導入を含め、皆様のご協力をお願いいたします。

小学部サンノゼ校の皆様には、年度末に詳細をお知らせするプリントが配布される予定です。また、補習校サイトにもアップ予定です。ご家族で熟読の上、4月からのスムーズな実施・ご協力をお願いします。

事務局よりお知らせ

3月、4月の主な行事予定

月	日	行事予定
3	18	平成17年度卒業式、修了式
4	8	平成18年度入学式、始業式

平成18年度入学式、始業式について

<小学部>

○サンフランシスコ校 (A.P. Giannini Middle School)
始業式：8:55~9:10 入学式：10:10~11:00

○サンノゼ校 (Cupertino Middle School)
始業式：8:55~9:10 入学式：10:10~10:55

<中学部・高等部>

始業式(中学部・高等部とも)：8:40~8:50

入学式(中学部)：9:00~9:30 (高等部)：9:35~10:00

○サンフランシスコ校 (Herbert Hoover Middle School)

○サンノゼ校 (J.F. Kennedy Middle School)

教科書配布について

小学部・中学部では、4月8日の入学式・始業式当日に新しい教科書を配布します。海外子女教育振興財団からすでに教科書を受け取っておられる方については、受取しないように児童・生徒にお伝えください。

なお、高等部の教科書につきましては、各自の購入になります。「教科書購入について」(別途配布)のお知らせをご覧ください。

補助教材・文房具の販売について

使用補助教材と文房具の出張販売を下記の日程で行います。下記日程以前には、紀伊国屋書店でも販売は行っておりません。

<小学部>

○サンフランシスコ校 4/8 1階ロビー 9:00~16:00

○サンノゼ校 4/8 中庭 9:00~15:30

<中学部>

○サンフランシスコ校 4/8 1階ロビー 11:55~12:35

○サンノゼ校 4/8 パビリオン 昼休み

平成18年度授業予定日(計47日・下線は集中学習)

4月	8, 15, 22, 29	10月	7, 14, 21, 28
5月	6, 13, 20, 27	11月	4, 11, 18
6月	3, 10, 17, <u>20, 21, 22, 23</u> <u>24, 27, 28, 29, 30,</u>	12月	2, 9, 16
7月	<u>1</u>	1月	6, 13, 20, 27
8月	なし	2月	3, 10, 17, 24
9月	2, 9, 16, 23, 30	3月	3, 10, 17

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月1回発行されます。

発行人：浅尾一郎

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542

電子メール：理事会・事務局 office@sfjlc.com、学校 sfjlc@msn.com

ホームページ：http://sfjlc.org

理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問い合わせ等には一切お答えいたしかねます。

無断複製・転載を禁ずる。©2006 All rights reserved.